

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

「マングローブ」ダイジェスト版 第8回

あの「週刊現代」連載記事が【マングローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

JR東労組の組合費は高い

自らが汗水垂らして働いた給料から納めた組合費が、組合員ですらない男の別荘や高級車に使われる…。こんな事実を目の当たりにしても、なぜJR東労組の組合員は怒らないのだろうか。しかも松崎に“搾取”されているJR東労組の組合費は、JR西日本やJR東海などJR他社の労組と比較しても異常に高いのだ。

JR総連と対立する「JR連合」傘下の、「JR西労組」や「JR東海ユニオン」は、組合員から年間組合費を12ヵ月分徴収している。これに対しJR東労組は14ヵ月分を徴収しているのだ。基本給30万円のモデルケースで試算すると、JR西労組の年間組合費が6万1200円、JR東海ユニオンが5万7600円なのに対し、JR東労組の組合費は年間9万2400円。JR東労組組合員は、他社の労組と比較しても、年額3万円以上も高い組合費を徴収されているのだ。

「それに加えてJR東労組では、アフガニスタンの難民救済といったような『平和運動』名目で、組合員からたびたびカンパを募っています。そのカンパが本来の目的どおりに使われているならまだしも、その用途もきわめて不透明なのです」（元JR東労組役員）

松崎は01年12月、毎日新聞社から出版された自著『鬼の咆哮』の冒頭で「豊かな想像力でアフガン難民に思いを馳せよう」と題し、こう述べている。

「いま世界最強国アメリカの、敢えていうが無差別空爆攻撃によって、アフガニスタンでは多くの市民が犠牲になり、同時に難民が生まれ出されている。私は人の親として労働組合のリーダーの1人としてこのことを看過できない。「2000円あれば一家10人が1ヶ月暮らせる」のだ。たばこを吸ってといる人はたばこをやめる、忘年会、新年会の酒を少し控える、それで一家10人が飢えずに済む。命が救えるのだ。もっともっと想像力を働かせよう。それこそが労働者のヒューマニズムそのものだ」

彼が好んで口にする<ヒューマニズム>がいかに、偽善に満ちたものが、もうおわかりだろう。組合費やカンパを流用し、私服を肥やしてきた労働運動家。こんな男を必死で庇うべく、JR東労組やJR総連の幹部たちは私の記事を「でたらめ、でっちあげ」などと喧伝した。だが、私の手元には、松崎とその側近たちの腐敗、さらにはJR東日本経営陣とJR東労組との癒着を告発した「衝撃の書」がある。その著者は、かつて「松崎の右腕」であり、JR東労組の大物幹部だった福原福太郎氏。226ページからなる本の題名は『小説 労働組合』である。…この本の冒頭のエピグラフ（題辞）が強烈な松崎批判になっている。

「魚は頭から腐るという。すべての組織も同じだが、労働組合では尚更である。幹部による労働組合の御用化と私物化策動を、労働者の無関心が許したからだ...」

【マングローブ（講談社）P.110～P.114】